



# 地域に根付いて42年 釈迦の教えに導かれる「オンリーワン経営」

福岡県北九州市 株式会社竹村建設

北九州市小倉、ここはかつて日本の富国強兵策の象徴、八幡製鉄所があった場所。この地に、仏の教えをもとに住宅づくりや街づくりに取り組む住宅会社があります。それが、株式会社竹村建設様です。竹村社長に住宅づくりへの想いをうかがいました。

## 釈迦の悟りの場所から

竹村建設様が展開する分譲地やマンションの名称には、すべて「リンデン」という言葉が含まれています。これは、その下で釈迦が悟りを開いたと言われる菩提樹の一種であるリンデンバウムに由来しているのだとか。ここからもうかがえるように、竹村社長は毎朝の誦経を欠かさないという熱心な仏教徒。住宅事業を始めるときから、この名前にすることを決めていました。釈迦の教えに沿って事業を進めたいという社長の強い気持ちが表れています。

## 生き物を供養する仏式地鎮祭

仏教の教えを大切にしている社長の信念が強く表れているのが、分譲地の宅地造成開始前の地鎮祭。同社では必ず僧侶による仏式です。工事が無事に終わるようにという祈願・祈祷の意味合いではなく、次のような想いが込められています。「造成工事によって、その地に生息している無数の生物が犠牲になります。そうした無数の生物たちがこの世界を終えて流転・輪廻を重ね、再び人間としてこの世に生まれたときに、阿弥陀仏に手を合わせる人になるように仏縁を結ぶ手助け



祭壇中央の阿弥陀仏に手を合わせ、その場所に生息する生き物を供養する仏式の地鎮祭の様子。



代表取締役社長 竹村正由氏

をしたいという想いがあります。ものを言わない生き物へのせめての償いであり、願いでもあるのです」

この姿勢に心を打たれた僧侶から、社長の気持ちを称える手紙が送られてきたこともあるそうです。

## 社長自らコンボで造成。住宅の配置を考える

宅地造成工事は社長が中心になって行きます。そのポイントは、掘るときより埋めるとき。社長自らがコンボに乗って埋め戻し工事をしながら、地盤のどの部分が強いのか、弱いかなどを確認するのです。こうした作業を通じて造成地全体を見渡しなが、区画プランを立てたり、個々の敷地内での家の配置を考えたりします。どんなに忙しくとも、この仕事だけは職人に任せることはありません。

## 「見えない部分をしっかりと」が家づくりの基本

「住宅は、地盤と基礎が最も重要です。次に、土台や柱です。完成後は目に見えない部分ですが、これが一番大事なのです」と語る竹村社長。とすると、見栄えやデザインばかりを重視しがちですが、見えない部分をどれだけしっかりと作っているかが重要です。そこで同社では、先のように社長自ら造成しながら地盤を補強し、基礎は十分に配筋したベタ基礎です。さらに、無垢の木をふんだんに使用し、通し柱や梁

が他社より多いというのが社長の自慢です。同業者からは「そこまでやらないのに」と言われるほどですが、だからこそ、お客様に安心して住んでもらえる住宅を提供していると自負しています。

## 女性のきめ細やかさで顧客の信頼を勝ち得る

同社では5人の女性スタッフが活躍しており、きめ細やかな対応がお客様に好評です。建築士、宅地建物取引主任者、インテリアコーディネーター、経理などそれぞれの担当は違いますが、間取りや設備などのプランについては、立場の違いを越えて一緒に知恵を出し合いながら住宅を企画・提案しています。



常務の風口伸子氏は、2級建築士と宅地建物取引主任者の有資格者。営業・女性スタッフのまとめ役として、竹村建設様に欠かせない存在

「住宅を建築するときには決定権を握っているのは、ご主人より奥さまの場合が多いのです。ですから、女性の視点が活きるのです。でも、プランが細かく変化の多い家になるので、コストが高つくのも事実。会社の経営を考えると、箱型で縦2階の家がいいんですけどね」と苦笑いの社長。しかし、お客様からデザインや感性がいいですねと褒められたときは「彼女たちに任せてよかったな、と嬉しく思います」。こう話し

ながら、社長の頬も緩みます。このときこそが、経営が数字だけではないことを改めて確認する瞬間だと思います。

もちろん男性の一級建築士やベテラン営業マンも多いのですが、お客様には極力女性社員が対応しています。

## 「分譲注文住宅」から「持家注文住宅」へ

竹村建設様では、見学会にも力を入れています。同社の手がける分譲地は区画数20戸前後のものが多く、1回の見学会で基礎段階、構造段階、竣工段階と住宅の様々な工事状況を見ることができる特徴があります。それぞれの段階を見ていただくことによって、どんな住宅を作っているかを十分に理解していただくことができます。これが、同社の強みでもあるのです。

竹村建設様の販売方法は条件付分譲ですが、それぞれの住宅はすべて個別に設計される注文住宅です。分譲住宅事業を始めて15年以上の同社では、最近、持家注文住宅の受注が増えていると言います。

「当初は、全く無名の工務店が注文住宅など受注できないだろうと思って分譲住宅をはじめました。しかし、最近では、以前に建てさせていただいたお客様からリフォームの発注をいただいたり、当社の分譲住宅を見て建替えなど持家の注文をいただくことが増えてきました」と自信を覗かせる竹村社長。どうやら今後の新しい展開が見えてきたようです。



釈迦の悟りの場所にちなんだ「リンデンタウン」



今回の  
ポイント

## 「オンリーワン経営」を考える

シックハウス・地震・環境問題など住宅に要求される様々なテーマについて、多くの地場工務店が対応が進んでいると思います。

しかし、家の「つくり」だけで他社と際立った差別化を図ることは、除々に難しくなってきたのではないのでしょうか。もちろん住宅の品質や性能が優れていることは言うまでもありませんが、そこで重要になってくるのは、他社には真似のできない独自のものであり、経営者が持つ固有の考え方です。それが「オンリーワン」です。これまでトップランナーのページで紹介した経営者は、どなたも素晴らしい固有の

考え方を持っていました。ある社長は、小学生のとき貧しいながらも父親が家を建ててくれたときの喜びが忘れられず、「家づくりは思いづくり、人づくり」という考え方のもとに施工過程と完成引渡し後を重視し、「永久親族証」を手渡すなど引渡し後のお客様とのつながりを大切にしています。

今回紹介した竹村建設様の「オンリーワン」は、「仏教の教え」に基づく経営です。下記に、その背景や実際の取り組みを整理してみました。

### 竹村建設様から学ぶ 「オンリーワン経営」で差別化を図る

#### < 竹村建設様の場合 >

経営者の背景

小学生の頃、失明した父親が寺へ説教を聞きにいくたびに送り迎えをしていた  
寺に親しみを覚え、自然と仏教の教えや所作が身についた  
叔父が僧侶であった

#### ポイント 経営者としての原点を見直す

住宅会社を創業したとき、大工になったとき、住宅業界に飛び込んだとき、誰もが自分なりの家づくりの理念を持っていたはずですが、売り手の論理ではなく、住まい手と夢のある家づくりをする。それは、経営者の生き方の原点にあると思います。

背景(原点)から  
オンリーワンを

仏教の教えを  
大切に  
した  
経営を!

自社の作品例や単価などを紹介するだけでなく、  
経営者自らの生き方や考え方 =  
他社にはないオンリーワン =  
「どんな考え方や理念で住宅を  
提供している会社なのか」を明確に。

取り組みに反映する

#### 仏式の地鎮祭

- ・生き物への慈しみや償いの心
- ・全社員が出席し、全員が同じ気持ちで共有する

#### 分譲住宅地の名前

- ・「リンデンタウン」「リンデンハイツ」というように釈迦が悟りを開いた場所にちなんだ名前をつける

#### 毎日の読経

- ・社長は、毎日朝夕の2回、必ず読経をする

#### 会社の様々な活動に取り入れる

左のように、竹村建築様では独自の考え方を日々の活動に取り入れています。他にも「リンデンタウン」に菩提樹を植えて人と自然と動物が憩える場所をつくるなど、家(街)づくりにも反映させることができそうです。このように家づくり、営業スタイル、現場対応、アフターサービス、販促活動、社員教育など様々な場面に取り入れることで、  
・お客様に一貫して同じ基準でサービスが提供できる  
・社員にも自覚を持たせることができる  
などのメリットがあります。

経営者の生き方や考え方を反映した  
「オンリーワン経営」で

➡ 考え方に共感するから納得・安心して購入できる

## 竹村建設様 こだわりの分譲注文住宅



分譲住宅とは思えないほど立派なこだわりのエクステリア



老後を考えたご夫婦のためにアプローチにはゆるやかな階段とスロープを



夫婦でカラオケとマッサージを楽しむくつろぎの部屋 広々とした空間でリラックス



床の間のある本格的な和室



お施主様の要望にあわせて車2台分のカーポートを設置